

令和5年度 授業改善推進プラン（小学校学級担任用）

福生第三小学校 第5学年2組 担任 ○○ ○○

1 福生市学力・学習状況調査の結果				
	分類	意識調査の質問項目	組	全国
学びに向かう力	感情のコントロール	8 家の人は自分のことを気にかけてくれていると思う	93.8%	94.0%
		53 自分には、先生や友だちからほめられるような得意なことがある	71.9%	78.4%
		54 自分の力をできるだけ伸ばしたいと思う	87.5%	92.3%
	目標の達成	18 ふだんから「不思議だな」、「なぜだろう」と感じることもある	43.8%	70.3%
		26 ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがある	90.6%	91.2%
	他者との協働	104 わたしは、友だちの心をきずつけることを言ったり、からかったりしていない。	70.0%	84.3%
	学力と関係が深い質問	111 家庭学習では、苦手な内容にも取り組んでいる	63.3%	79.0%
		97 話し合い活動に進んで取り組んでいる	53.3%	74.4%
38 他のことに気を取られず、学習に集中している		46.9%	64.9%	
領域名		学力調査の分析 ○成果 ▲課題		
国語	言葉・情報・言語文化	▲全国平均正答率を9.5ポイント下回り、(都道府県の名を書く)設問に課題がある。		
	話すこと・聞くこと	▲全国平均正答率を7.5ポイント下回り、(高橋さんの質問の意図を選ぶ)設問に課題がある。		
	書くこと	▲全国平均正答率を29.1ポイント下回り、(記事の原稿の空欄に入る言葉を書く)設問に課題がある。		
	読むこと	▲全国平均正答率を25.0ポイント下回り、(文章の内容と合う短文を選ぶ)設問に課題がある。		
算数	数と計算	▲全国平均正答率を23.4ポイント下回り、(上から2桁の概数で表す)設問に課題がある。		
	図形	▲全国平均正答率を14.0ポイント下回り、(面積が120cm ² になる長方形を選ぶ)設問に課題がある。		
	変化と関係	▲全国平均正答率を13.8ポイント下回り、(伴って変わる2つの数量で、一方を求める)設問に課題がある。		
	データの活用	▲全国平均正答率を14.9ポイント下回り、(折れ線グラフを書く)設問に課題がある。		
2 児童の実態		3 児童の実態を踏まえた授業改善の取組		
<p>国語の学習に関しては、すべての項目で全国平均正答率を下回り、多くの課題が見られる。特に、『漢字の書き』や『文章を書く』設問で、全国平均を大きく下回った。意識調査では、『本で読んだことを参考にして、学校や家庭の学習や生活の場面で、よりよくなるように工夫している』が全国平均よりも低く、それが原因であると考えられる。</p> <p>算数の学習に関しては、すべての項目で全国平均正答率を下回り、多くの課題が見られる。特に記述式の応用問題が全国平均を大きく下回った。意識調査では、『友だちと、問題の解き方やより良い解き方を伝え合っている』が全国平均よりも低く、それが原因であると考えられる。</p>		<p><国語></p> <ul style="list-style-type: none"> 音読を徹底させるとともに、分からない言葉の意味調べを習慣化させる。 朝の読書活動、宿題での読書活動をこれまで以上に活発にし、本の楽しさやわからないことを知ることの有用性を実感させる。 文章を書く際に、既習漢字を使うことや漢字の意味を考えることを繰り返すことで、知識の定着を図る。 <p><算数></p> <ul style="list-style-type: none"> 問題の場面把握をしっかりとさせる。その上で自分の考えを図や表などを使って説明する時間を多くする。同じ考え方も友達と交流することで自分の考えに自信をもちたり新たな考え方に気付いたりすることができるようにする。 分数や少数の四則計算を、ミライシードやドリルを使って繰り返し練習させ基礎基本の力を定着させる。 		
4 ミライシードとの連携機能を活用した取組				
個別ドリルの実施状況		令和5年8月末時点で完了している児童	81.3%	(26人/32人中)
確認テストの実施状況		令和5年8月末時点で完了している児童	75.0%	(24人/32人中)

